5. 母親の属性に関連させて

一口に母親と言っても、年齢や学歴、職業経験、家族構成やその中での位置、夫の職業そのほか、それぞれの母親のもっている個人的条件は多様である。そして自分が育ってきた家庭環境やそこで受けたしつけのパターン、母親の性格、子どものもつ個人的条件（例えば性格や問題など）などが総合されて「しつけ」の内容や方法が作り出される。

ここではそうした細かい条件を１つ１つ洗い出してみる余裕はないが、その中で母親の学歴と子どもの就園先（幼稚園か保育所か）、母親の子ども好きの度合い、の３つの条件を検討してみた。

●学歴と就園先)))

ふつう高学歴の母親は子どもをきちんとしつけるイメージがあるが、どうだろうか。しかし今回の調査では、その差はほとんど見られなかった。わずかに差異が見られたものは**図９**の７「チョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき」の項目だけであった。高学歴の母親ほど食べ歩きは許さない傾向が見られるが、学歴はしつけの違いを解く鍵とはなっていないようである。

図10は、幼稚園と保育所という子どもの就園先による違いが見られたものである。５「おもちゃのとりあいによるケンカ」と、７「チョコレートを食べたいとせがんだとき」の２項目に違いが見られ、保育園児の母親の

ほうに、ケンカの際、わが子にがまんをさせ、食べ歩きには甘い傾向が見られる。しかしこれも、しつけの差に対する大きな要因とはなっていないようである。

図9　しつけ × 学歴

7．買ったチョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき

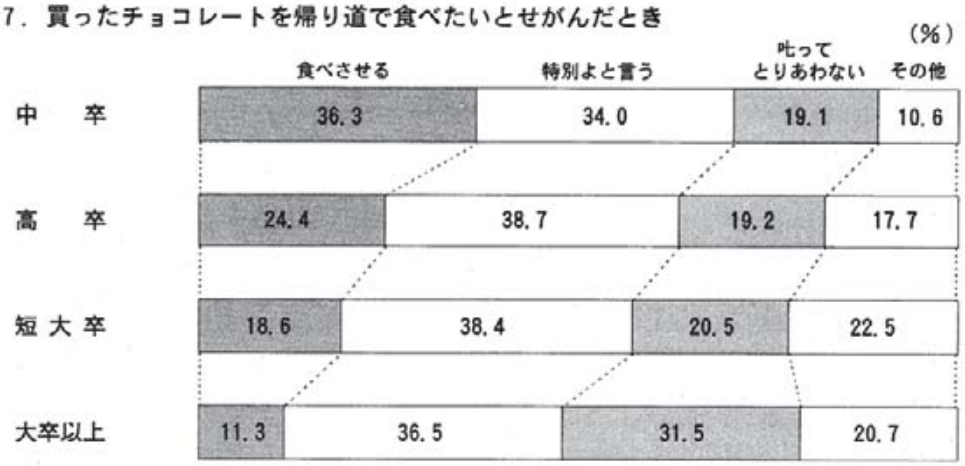
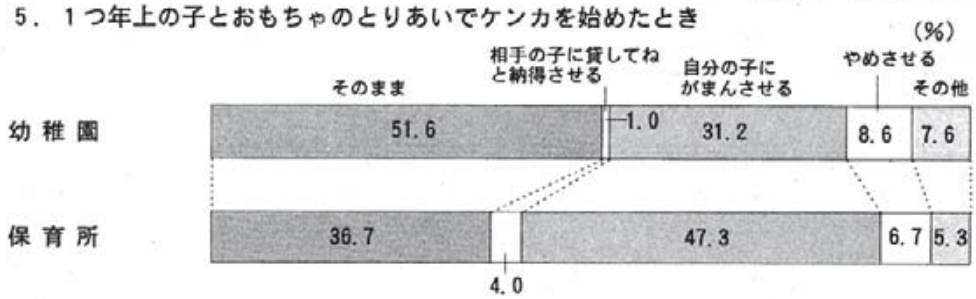


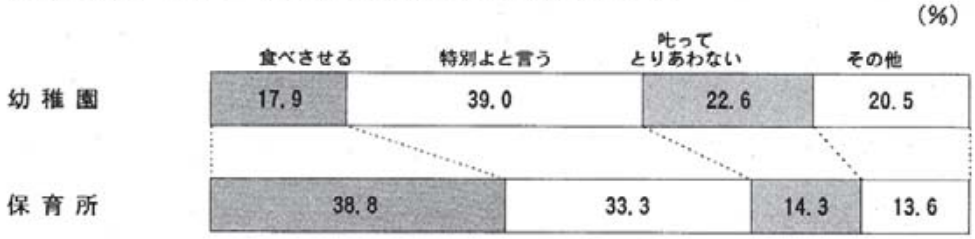
図10　しつけ × 就園

(数値は4～8歳児のみ)

5．1つ年上の子とおもちゃのとりあいでケンカを始めたとき



7．買ったチョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき



●子育てが好きな母親のしつけ)))

子どもの立場からすれば、自分の母親が子育ての好きなタイプであってほしいと願うだろう。自分と関わることが母親にとっても至福の状態であれば、自分の幸せと母親の幸せが一致するからだ。しかし実際は図2で見てきたように、子育てをあまり好まない母親は全体の2割にも達する。

しかし、それは母親の胸の中だけの問題なのだろうか。育児への関心の有無がしつけのパターンに影響することはないのだろうか。

表6は母親を子育てが好きかどうかで3つに分け、それぞれのしつけ場面についてみたものである。

子どもをしつけるべき場面で「そのままにさせておく」と答えた者の割合は3「朝の着替え」、4「片づけ」、7「買ったチョコレートを食べたいと言った」、8「電車の中」、9「バカと言った」の5つの場面で、いずれも子育てが好きでない母親に多くなっている。次頁に掲げた朝の着替えに例をとれば、「子どもが朝ねまきのままで着替えようとせずにいるとき」に、「とくに急がないときはそのままにさせておく」と答えた母親は、「子育て好き」群では26%だが、「少し好き」群では34%、「好きでない」群では37%と次第にふえていく。もう一つ例を挙げると、「よそのおばさんに注意されてバカと言い返した」ときに子どもにあやまらせる母親は、「子育て好き」群では76%、「少し好き」群では70%と減少し、「好きでない」群は68%となっていく。また「チョコレートの食べ歩き」場面でも「歩きながら食べさせる（家に帰るまでがまんさせない）」者は、「子育て好き」群では14%だが、「少し好き」群では20%、「好きでない」群では30%にも達している。子どもを育てることが好きな母親は、それぞれの場面でこまめな対応をしていることが推測される。子育てが好きでない母親は、しつけにどこか無関心で心が入らないのであろう。

こうした日々の細かいしつけの積み重ねが、やがて子どもの人格形成を大きく左右する結果となることは明らかだ。子育てのあまり好きでない母親にどう支援して、子育ての質を高めるかが1つの課題であろう。

表6　子育てが好きな母親のしつけ

1．寝る時間でも遊んでいるとき

(%)

	しつけ内容			
	そのまま	強制しない	布団に入れる	その他
子育てがとても好き	1.3	31.4	61.0	6.3
少し好き	1.0	34.1	61.5	3.4
好きでない	0.3	40.8	55.0	3.9

2．嫌いなものを残すとき

(%)

	しつけ内容			
	強制しない	少し食べれば許す	必ず全部食べさせる	その他
子育てがとても好き	18.5	66.4	4.1	11.0
少し好き	17.7	72.0	3.1	7.2
好きでない	18.4	75.8	2.6	3.2

3．朝なかなか着替えようとしないとき

(%)

	しつけ内容			
	そのまま	何度も言う	許さない	その他
子育てがとても好き	26.2	59.3	8.5	6.0
少し好き	33.9	53.6	5.6	6.9
好きでない	36.9	50.6	8.0	4.5

4．遊んだおもちゃを片づけようとしないとき

(%)

	しつけ内容			
	おとなが片づけてしまう	大部分本人に片づけさせる	1人で全部片づけさせる	その他
子育てがとても好き	7.8	76.9	12.5	2.8
少し好き	10.9	76.4	9.4	3.3
好きでない	14.1	72.2	9.9	3.8

5．1つ年上の子とおもちゃのとりあいでケンカを始めたとき

(%)

	しつけ内容				
	そのまま	相手の子に貸してねと納得させる	自分の子にがまんさせる	やめさせる	その他
子育てがとても好き	54.8	3.5	27.1	7.0	7.6
少し好き	49.8	1.3	32.3	9.2	7.4
好きでない	43.6	0.3	42.3	7.9	5.9

6．デパートで1000円くらいのおもちゃをせがんだとき

(%)

	しつけ内容			
	買ってやる	なだめたり気をそらす	叱る	その他
子育てがとても好き	4.1	73.3	5.1	17.5
少し好き	6.5	75.8	4.6	13.1
好きでない	8.9	71.4	8.2	11.5

7．買ったチョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき

(%)

	しつけ内容			
	食べさせる	特別よと言う	叱ってとりあわない	その他
子育てがとても好き	13.9	38.5	20.1	27.5
少し好き	19.7	38.3	22.4	19.6
好きでない	30.0	37.5	21.9	10.6

8．すいている電車の中で友だちと走り回っているとき

(%)

	しつけ内容			
	そのまま	親が話し相手になる	叱って座らせておく	その他
子育てがとても好き	8.8	71.8	14.1	5.3
少し好き	11.3	67.9	17.9	2.9
好きでない	14.1	56.2	26.8	2.9

9．よそのおばさんに注意されて「バカ」と言い返したとき

(%)

	しつけ内容			
	親があやまる	子どもが黙っていてもそのまま	必ずあやまらせる	その他
子育てがとても好き	4.8	7.7	76.2	11.3
少し好き	6.2	13.4	69.9	10.5
好きでない	6.7	16.3	68.3	8.7

10．電車で席が空いていたら、おとなを押しのけて座ったとき

(%)

	しつけ内容			
	そのまま	お年寄りがいなければそのまま	立たせる	その他
子育てがとても好き	2.5	65.0	26.5	6.0
少し好き	2.9	72.3	21.2	3.6
好きでない	4.6	67.6	23.9	3.9

11. スーパーからガムを持ってきたことに気づいたとき

(%)

	しつけ内容			
	一応叱るだけ	母親が返す	あやまらせる	その他
子育てがとても好き	2.9	22.7	66.1	8.3
少し好き	4.9	24.9	64.9	5.3
好きでない	7.5	26.6	64.3	1.6

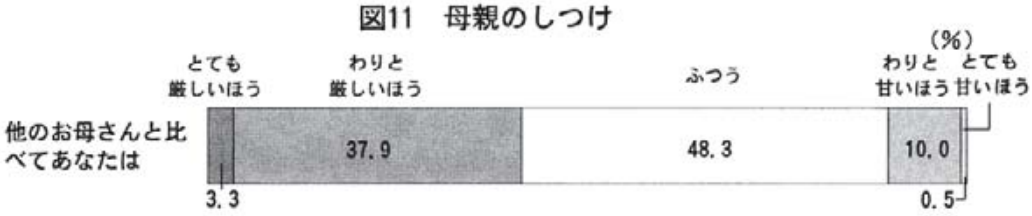
6. 昔のしつけ・今のしつけ

昔の親は大したものだった、学歴も職業経験も乏しかったのに、立派に子どもをしつけた、と言う人がいる。本当にそうだったのか。そしてまた現在の自分は他の母親たちと比べてしつけが甘いほうか、それとも厳しくしつけているつもりか。また夫はどうか。そうした点を比較させてみた。

●他の母親と比べて自分は)))

図11は他の母親と比べて自分のしつけが甘いか厳しいかを自己評価させたものである。図が示すように半数は「ふつう」(同じくらい)と答えているが、他の母親より自分をしつけに「厳しい」と自己評価する者は41%にものぼり、「甘い」の11%を大きく上回っている。自負心のレベルでは他人より厳しくしつけているつもりなのであろう。

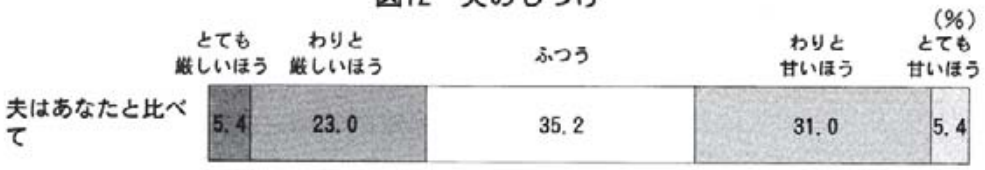
図11　母親のしつけ



●夫と比べて)))

夫が育児や子どものしつけに協力してくれないという声はよく聞くものの１つである。しかもきちんと叱ってくれない、子どもに甘すぎて父親の役割を果たしてくれないので困る、という声も聞かれる。この点についてたずねたのが**図12**である。「ふつう」（自分と同じくらい）」と答えた者は35％と少なく、自分より「厳しい」と答えた者は28％、「甘い」と答えた者は36％で、やや甘いと答える者が多くなっているが、世間で言われているほど父親の甘さに手を焼いているふしはみられない。マスメディアを通して伝わってくる声は一部の者の声なのだろうか。

図12　夫のしつけ

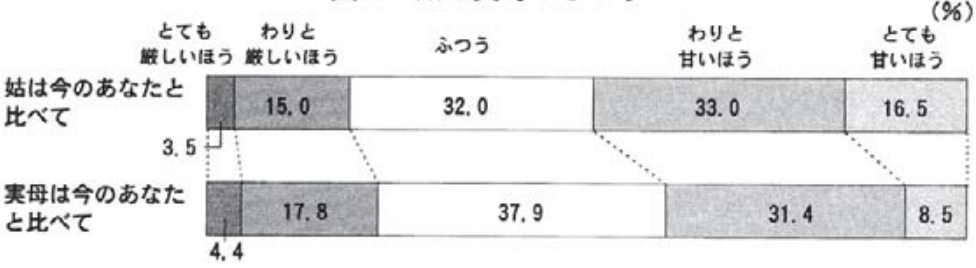


●昔の親・今の親)))

「おばあちゃんが甘やかして困る」という声もよく聞かれる。昔自分が受けたしつけと今自分がしているしつけはどうだろうか。昔の人のほうがしつけが厳しいと感じているのだろうか。

図13によると、姑を自分が今子どもにしているしつけより甘く夫を育てた、と答えている者は約５割、自分より厳しく育てただろうと推測している者は約２割。はるかに「自分より甘い」と答えている母親が多いことがわかる。甘くて夫を十分にしつけることができなかった姑、ということになろうか。次に自分と実母を比べるとどうか。自分より「甘い」が約４割で「厳しい」が約２割と、姑よりも多少甘いがへっているもののその分「厳しくしつけた」がふえているわけではない。現在の20代の母親の姑や実母は40代から50代、戦後に教育を受けた人びとであり、育児パターンも欧米の方式を見習って育てた人びとである。明治や大正のリンとした世代に比べると、厳しさのないしつけや方針の定まらないしつけをした世代なのかもしれない。

図13　姑と実母のしつけ



●夫なら・実母ならどうする)))

母親によるトータルなしつけの厳しさ評価から、さらに一歩ふみ込んで具体的な場面で父親、母親の実母がどうしつけると思うか、たずねた結果を次に見ていこう。父親については現在、実母については自分が今の子どもくらいのときの記憶や印象をたずねたものである。(あなたが今のお子さんくらいのとき、どうされたと思いますか)

3つを並べて作図した図14を見ると、場面によって3者の対応の仕方が大きく違うことに気づく。

まず母親が3人のうちで一番厳しく叱るのは9「注意されてバカと言う」、11「スーパーからガムを持ってくる」、7「歩きながら食べる」、10「電車での席取り」で、社会的なルールやマナーが必要な場面である。

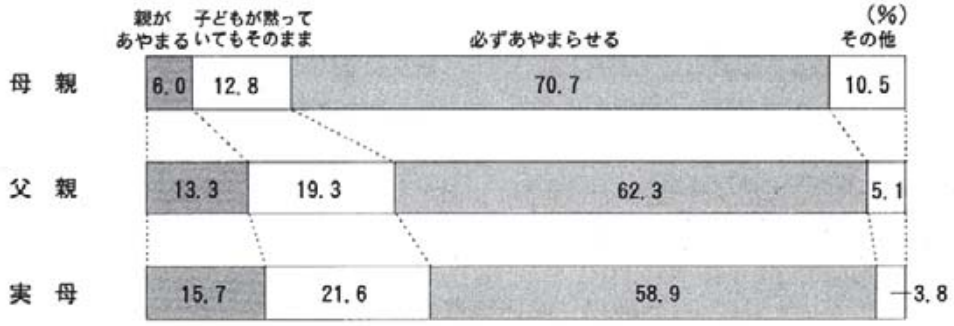
父親が非常に甘いのは、6「デパートでおもちゃをほしがったり」、3「朝、ねまきのままでいたり」などのときだ。そのくらいのこと大したことではないじゃないか、好きにさせれば、というところなのだろう。

おばあちゃんが甘いのは2「偏食のとき」らしい。食べものに関しては、昔わが子に乳を与えて育てた存在だけに、甘くなってしまうのだろう。

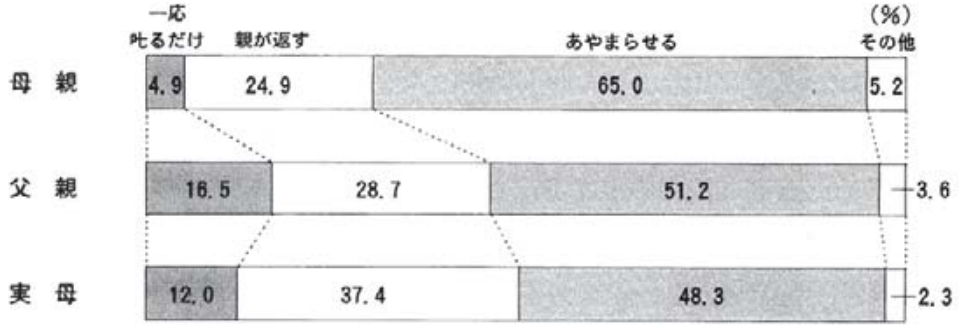
父親とおばあちゃんがやらせたがるのは、4「おもちゃの後片づけ」で、母親よりも「絶対手を出さない」が多いのが面白い。母親となると1人でさせるなどとゆっくりしていられず、といって自分がしてしまうのもよくないので「少し手伝って」ということになるのだろう。また、8「電車の中で走り回る」子に対しても、「とにかく叱って席に座らせておく」という答えが父親には多い。

図14　母親・父親・実母のしつけ

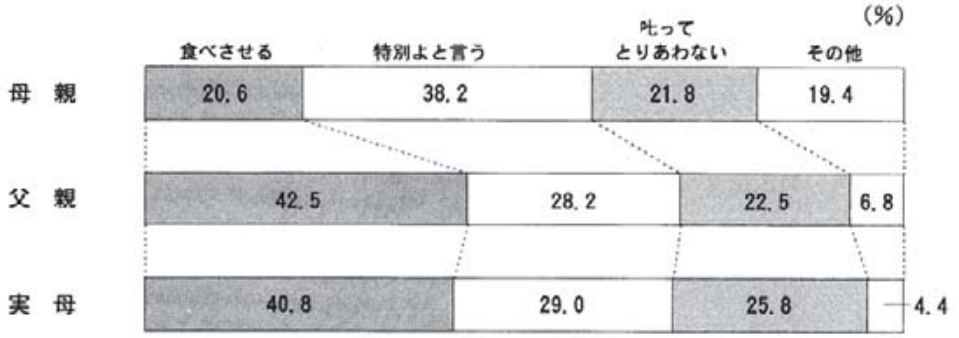
9. よそのおばさんに注意されて「バカ」と言い返したとき



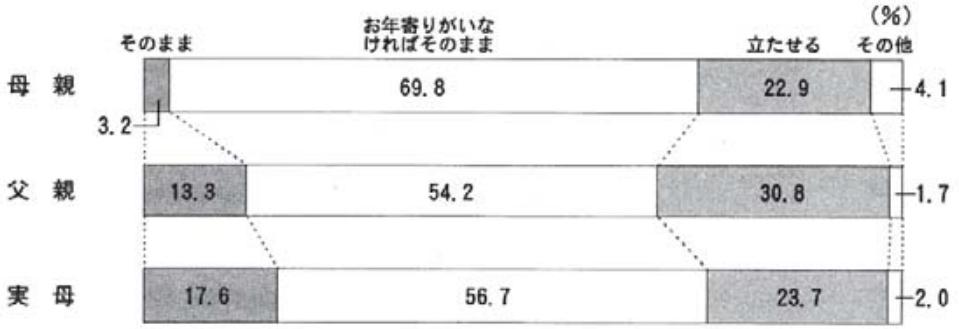
11. スーパーからガムを持ってきたことに気づいたとき



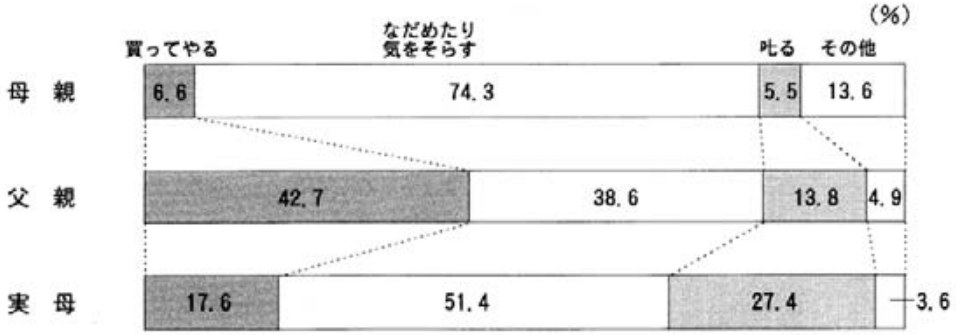
7. 買ったチョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき



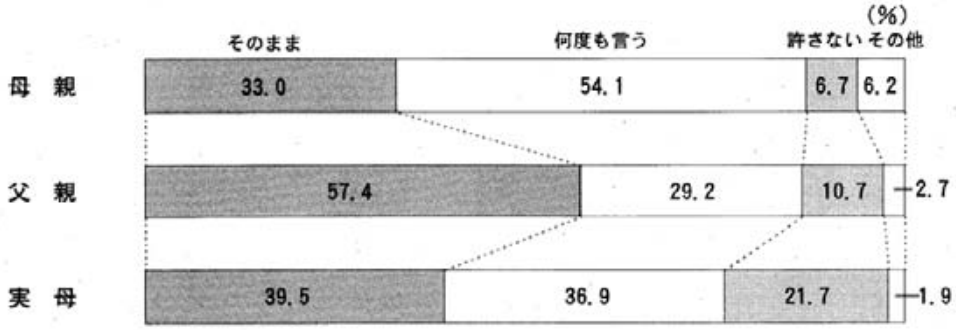
10. 電車で席が空いていたら、おとなを押しのけて座ったとき



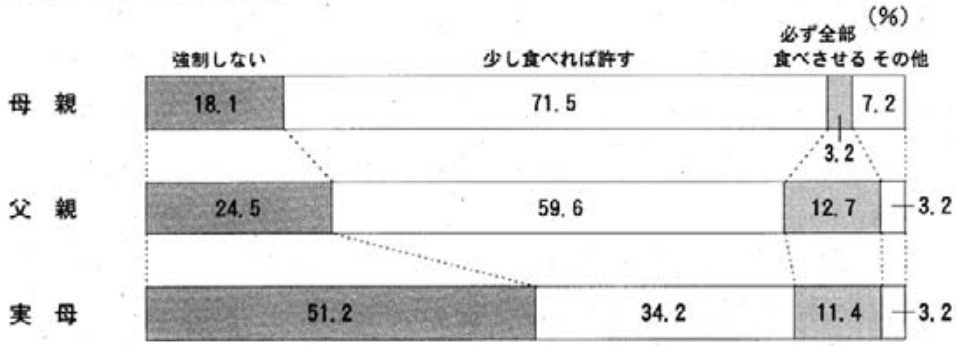
6．デパートで1000円くらいのおもちゃをせがんだとき



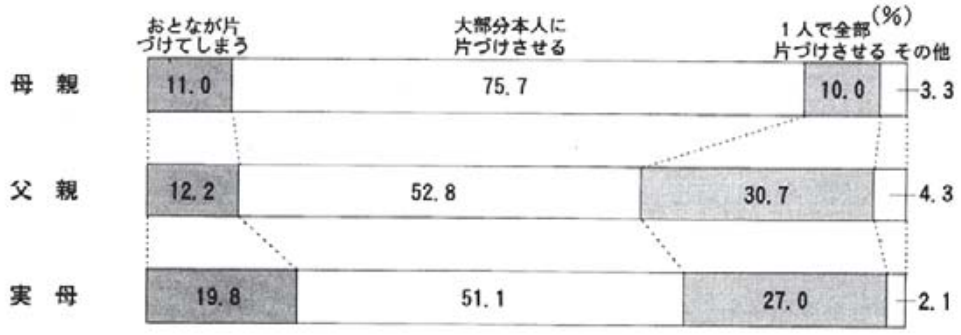
3．朝なかなか着替えようとしないとき



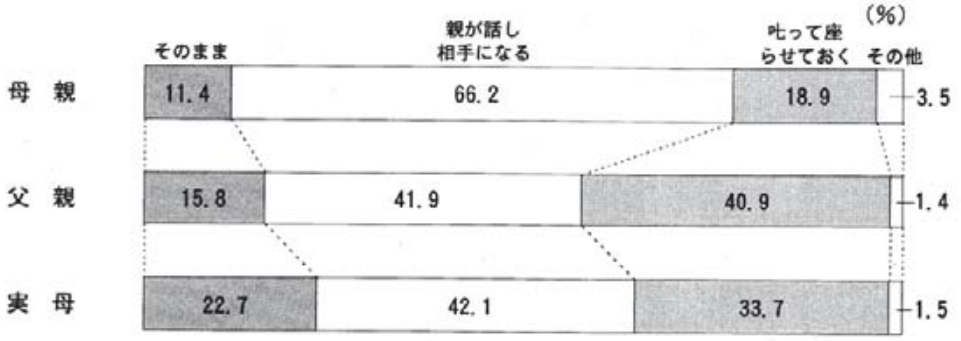
2．嫌いなものを残すとき



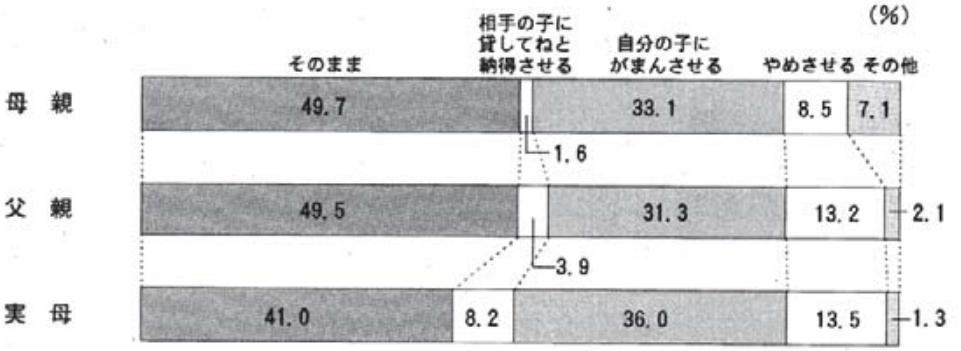
4．遊んだおもちゃを片づけようとしないとき



8．すいている電車の中で友だちと走り回っているとき



5．1つ年上の子とおもちゃのとりあいでケンカを始めたとき



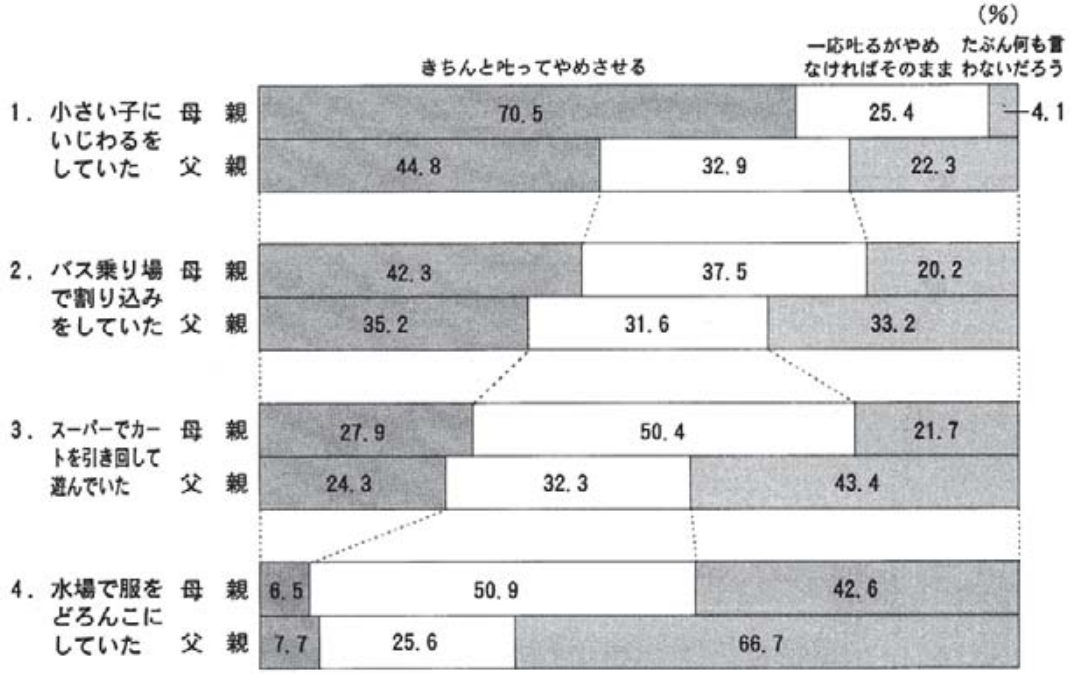
●他人の子には)))

地域の教育力の低下が言われている。しつけは親がするだけで、地域のおとなたちは知らん顔だという指摘が、地域の教育力の低下の一部を現している。

図15は、「水場でどろんこになっている子」「小さい子にいじわるをしている子」「バスの列へ割り込みをした子」「スーパーで遊んでいる子」を見たとき、他人の子でもどのくらい注意するかをたずねた結果である。

図が示すように「小さい子へのいじわる」は多くの母親がきちんと叱ると答えているが、他はその対応はまちまちである。叱る者も放任する者もそれぞれの割合で見いだされる。例えばバスの列の割り込みを「きちんと叱ってやめさせる」母親は4割、しかし「何も言わない」母親も2割いる。スーパーで遊んで

図15　見知らぬ子どもに対するしつけ

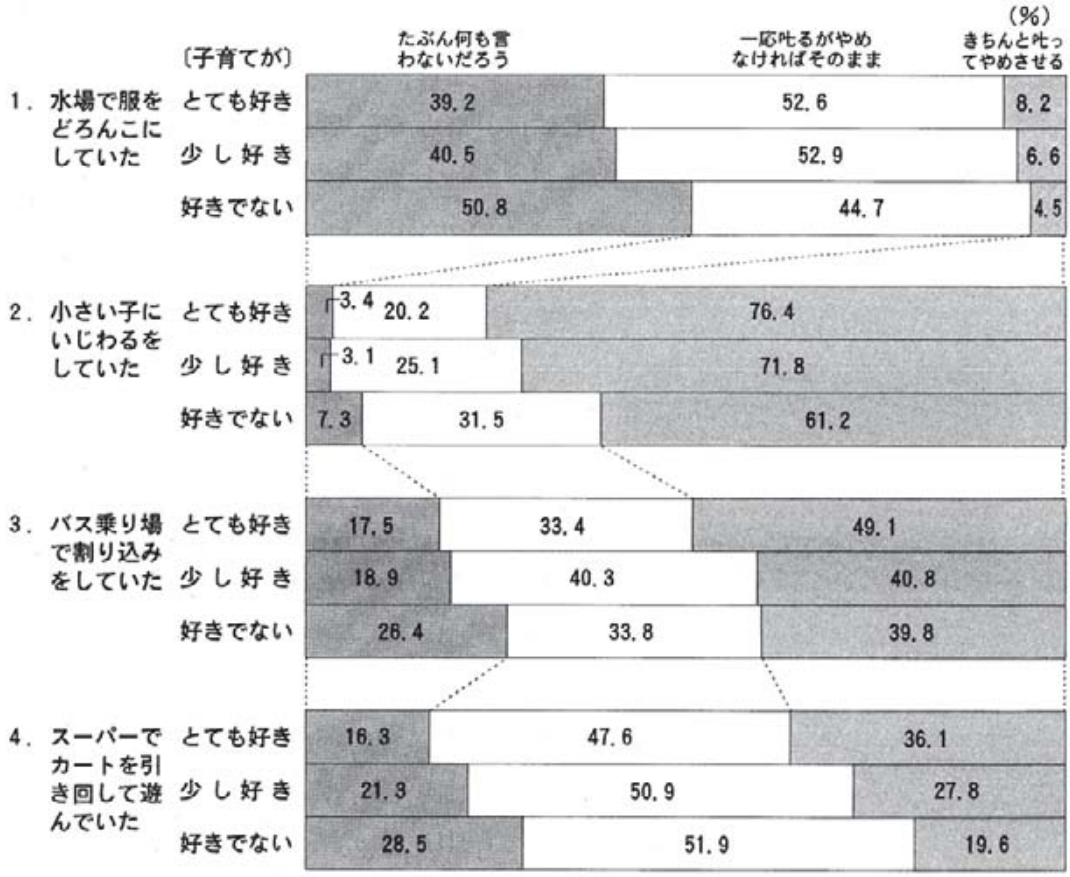


いる子にもきちんと叱る母親は3割、放任する母親2割と多様である。

しかも母親に比べ父親は、どの項目でも母親より叱らず放任する。小さい子にいじわるをしている子を見たときでさえ、母親は7割がきちんと叱るのに、父親は4割強しか叱らない。父親のほうが社会的感覚をもち、ルールの無視に対して厳しい態度で臨みそうだが、実際は「他人の子はどうでもいい」と思っているのだろうか。

これを**図16**は、母親についてだけ「子育てが好き」かどうかとの関連を見たものである。4場面のどれについても「子育てが好き」な母親のほうが「好きでない」母親よりも他人の子をきちんと叱ると答えている。例えば「スーパーでカートを引き回して遊んでいる子」に対して「叱ってやめさせる」者の割合は、「子育てがとても好き」群で36%、「少し好き」群28%であるのに、「好きでない」群は20%でしかない。すでに見てきたように、子ども好きな母親は子ども好きでない母親よりわが子をきちんと叱っているが、子ども好きな母親は他人の子といえども、やはりある程度きちんと叱っていることがわかる。

図16　見知らぬ子どもに対するしつけ × 子育てが好きか



●自分の母親の影響)))

先に、母親自身と実母のしつけに関するデータをいくつか紹介したが、もう少しこの母親と実母の関連をみたものが表7である。

2「嫌いなものを残すとき」に、無理に強制をしない母親は、自分の実母も昔、そうであっただろうと答え、その他のほとんどの項目においても、実母も自分と同じだっただろうと答えている。とくに、公共のルールに関するしつけのやり方にその傾向が強いようである。

子育てのやり方は、善かれ悪しかれ、実母のそれを受け継ぐものであると言われているが、本調査においても、少なくとも母親の意識の中ではその関連が見いだされる。

実母の子育てを継承し、また子育てが好きな者ほど子どもに手をかけて育てるというデータは、「子育てが好きでない」母親たちの、「なるべく手をかけずに、放任する」子育てをますます助長し、子育てが好きな母親たちとの間の開きがさらに大きくなることも予想される。これらの母親たちの子育てを、周囲からどこでどう援助していったらよいのかが、今後の課題であろう。

表7　母親のしつけと実母のしつけ

2. 嫌いなものを残すとき

(%)

		実母		
		強制しない	少し食べれば許す	必ず全部食べさせる
母親	強制しない	74.2	17.6	9.0
	少し食べれば許す	48.5	38.2	10.8
	必ず全部食べさせる	33.3	37.5	27.1

3．朝なかなか着替えようとしないとき

(%)

		実母		
		そのまま	何度も言う	許さない
母親	そのまま	60.5	22.4	16.0
	何度も言う	28.7	47.3	22.6
	許さない	19.6	31.4	48.0

4．遊んだおもちゃを片づけようとしないとき

(%)

		実母		
		おとなが片づけてしまう	大部分本人に片づけさせる	1人で全部片づけさせる
母親	おとなが片づけてしまう	39.8	43.3	15.8
	大部分本人に片づけさせる	17.4	54.3	26.2
	1人で全部片づけさせる	11.1	38.6	49.0

5．1つ年上の子とおもちゃのとりあいでケンカを始めたとき

(%)

		実母			
		そのまま	相手の子に貸してねと納得させる	自分の子にがまんさせる	やめさせる
母親	そのまま	53.4	7.5	27.0	10.7
	相手の子に貸してねと納得させる	20.8	33.3	33.3	12.5
	自分の子にがまんさせる	29.7	8.2	49.6	11.6
	やめさせる	20.3	11.7	30.5	35.2

6．デパートで1000円くらいのおもちゃをせがんだとき

(%)

		実　母		
		買ってやる	なだめたり気をそらす	叱　る
母　親	買ってやる	37.4	36.4	24.2
	なだめたり気をそらす	15.4	55.7	26.3
	叱　る	14.1	33.3	48.7

7．買ったチョコレートを帰り道で食べたいとせがんだとき

(%)

		実　母		
		食べさせる	特別よと言う	叱ってとりあわない
母　親	食べさせる	74.3	12.7	11.7
	特別よと言う	39.6	41.7	17.1
	叱ってとりあわない	24.8	23.9	50.5

8．すいている電車の中で友だちと走り回っているとき

(%)

		実　母		
		そのまま	親が話し相手になる	叱って座らせておく
母　親	そのまま	62.1	14.9	21.8
	親が話し相手になる	16.7	51.4	31.1
	叱って座らせておく	22.1	25.3	49.5

9．よそのおばさんに注意されて「バカ」と言い返したとき

(%)

		実母		
		親があやまる	子どもが黙っていてもそのまま	必ずあやまらせる
母親	親があやまる	51.7	16.9	24.7
	子どもが黙っていてもそのまま	22.2	48.7	26.5
	必ずあやまらせる	10.3	18.0	69.8

10．電車で席が空いていたら、おとなを押しのけて座ったとき

(%)

		実母		
		そのまま	お年寄りがいなければそのまま	立たせる
母親	そのまま	61.2	26.5	6.1
	お年寄りがいなければそのまま	19.2	65.3	14.3
	立たせる	8.8	35.0	54.1

11．スーパーからガムを持ってきたことに気づいたとき

(%)

		実母		
		一応叱るだけ	親が返す	あやまらせる
母親	一応叱るだけ	68.9	25.7	4.1
	親が返す	12.5	67.1	18.6
	あやまらせる	7.3	26.9	64.8

7. 子育てと自己実現

母親は、母親になる前に１人の女性として人間として、人生にかける夢も希望もあった人びとである。男性がその夢と希望に一生をかけるのに対して、女性はそれを一時的に中断するか、または永久にあきらめなければならない。それが子どもの出産であり、子育てである。しかし子育てはいつか終わる。子どもが巣立つ日に、である。子どもが自分の手を必要としなくなる日が来ることを知っていて、それでも自分の仕事を断念する人びとと、その日があるからと無理しても仕事を継続していく人びとがある。そのいずれが、子にとっても母親にとってもいいことなのか、軽々しくは結論できない。まさにケース・バイ・ケースであろう。

本サンプルは前に見たように、主として幼児をもつ30代のライフステージの母親たちである。その人びとの自己実現欲求は、子育てとの関わりでどうなっているのだろうか。

まず**表８**、**図17**は、母親になる前に結婚や育児以外に生涯かけてしたい夢があったか、をたずねた結果である。最も多い答えは「とくになかった」で43%。つまり、結婚・育児・家事を生涯のライフワークと考えていた人びとであろう。

残る６割弱は何らかの（家庭人以外の人生で）自己実現欲求があったと答えている。この点を学歴別に見てみよう。**表９**によれば、中卒・高卒の母親たちは夢が「とくになかった」と答える者が50%を超え、学歴が上がるにしたがって、逆に夢は「現在も両立している」、あるいは「いつか再開するつもり」であると答える者の割合がふえる。かりに中断していても、「いつか再開するつもり」と答えた者の割合は、中卒から大卒以上にしたがって、16%、19%、33%、34%と大きくふえていく。しかし高学歴者の中には、低学歴者より「あきらめた」とする者も多いのが面白い。

またこの点に関しては、**表10**でジェンダー役割、**表11**で子育てが好きかどうかとの関連を見た。まず表10だが、自分が女性であることに満足している（ジェンダー役割を受け入れている）人と満足していない人びととの間で、「生涯かけた夢」をどうしたかについてみると、もともと「とくに夢はなかった（自己実現を望んだ対象はなかった）」とする者は、ジェンダー役割の受容者（女性であることに満足している者）に45%、非受容者（女性であることに満足していない者）に36%と、ジェンダー役割受容者には意欲的な人びとが少ない傾向が指摘できる。環境に順応し、大きな志や望みをもたない、自分を人生で精一杯生かしたい、とする動機の弱い人びとである。考えてみれば、環境に順応的な人びとだから、与えられた性別を受容しているという見方もできる。

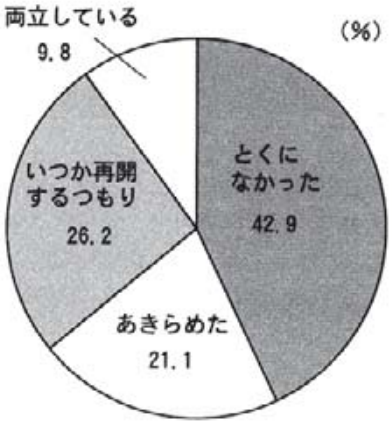
さて、残りのかつて自己実現欲求をもっていた人びとはどうしたか。表10によると、「いつか再開したいと思っている」者は、受容者では24%、非受容者では34%。また「現

表8　生涯かけた夢があったか

(%)

とくになかった	42.9
あきらめた	21.1
いつか再開するつもり	26.2
両立している	9.8

図17　生涯かけた夢があったか



在も育児とやりたいことを両立させている」者は、受容者で９％、非受容者で11％。両方を合わせると、断念せず育児以外の自己実現欲求をもちつづけている者は、受容者で33％、非受容者で45％となる。

また表11によれば、子育てが好きでない者ほどもともと自己実現欲求が少なく、「好きでない」群は55％、次いで43％、「とても好き」群は30％となっている。また現在も子育てと何かの夢を両立させている者は、「好きでない」群で６％、次いで10％、「とても好き」群では12％となっている。また「いつか再開するつもり」を合わせると差はもっと開き、29％、35％、45％となる。

子育ての好きな母親は子育てだけを自分の生涯の仕事とするのではなく、他に自己実現欲求をもっており、それを人生の中で（中途での休止はあっても）両立させようとしている人びとということができる。「子育て好き」とは単に女性というジェンダーに順応する人びとではなく、意欲的積極的で成熟した人格の所有者と言えるのかもしれない。

表９　生涯かけた夢があったか × 学歴

（％）

	とくになかった	あきらめた	いつか再開するつもり	両立している
中　卒	52.0	14.0	16.0	18.0
高　卒	54.1	19.5	19.3	7.1
短大卒	35.1	22.4	33.1	9.4
大卒以上	27.1	22.2	34.2	16.5

表10　生涯かけた夢があったか × 生まれ変わり*

（％）

	とくになかった	あきらめた	いつか再開するつもり	両立している
絶対・できれば男性	36.4	18.2	34.3	11.1
絶対・できれば女性	45.4	21.9	23.5	9.2

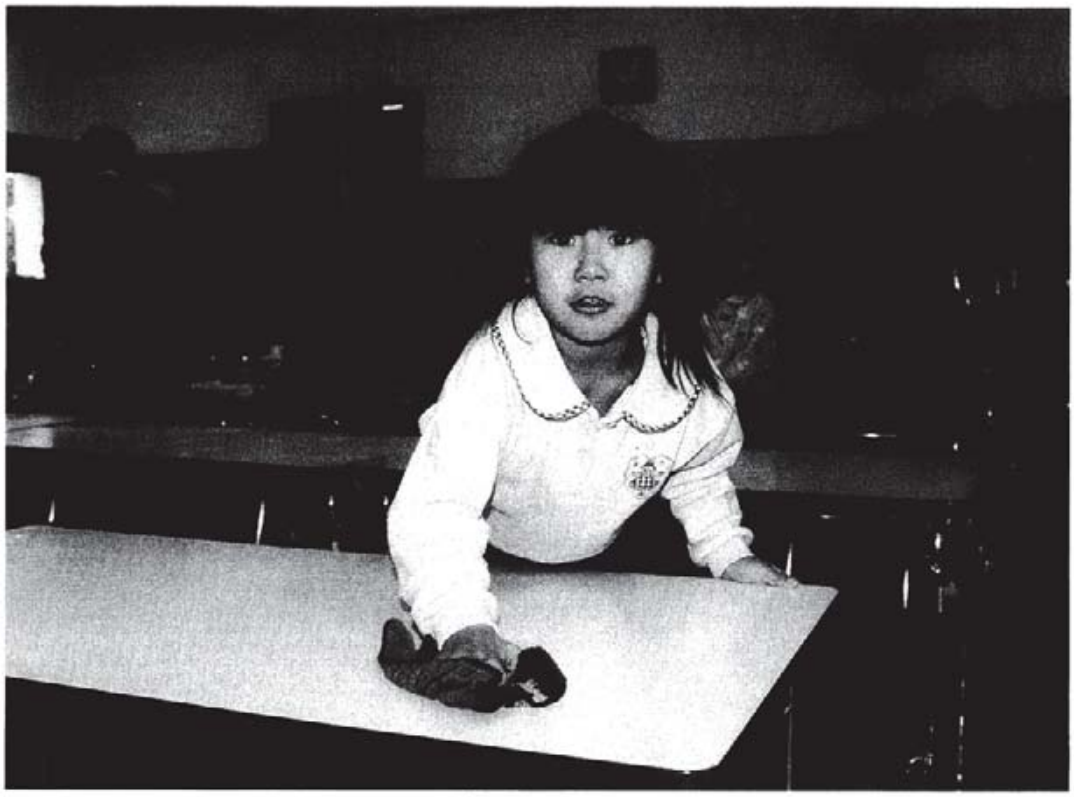
（＊ジェンダー役割の受容）

表11　生涯かけた夢があったか × 子育てが好きか

(%)

	とくになかった	あきらめた	いつか再開するつもり	両立している
子育てがとても好き	30.4	24.4	33.2	12.0
少し好き	43.4	21.4	25.2	10.0
好きでない	54.5	17.0	22.1	6.4

8. まとめ



このレポートは、現代の幼児をもつ母親（主として30代）にそのしつけのパターンを中心に、あわせてその自信や自己評価、また母親役割、主婦役割、女性役割の受容（適応）の度合いを探ろうとしたものである。

しつけは、しつけ手の成育歴と個人の人生哲学、人間観、子ども観、そして家族構成やその風土（文化）、家族を包む社会の文化や社会的欲求、また子どもの年齢や性格といったものが総合されたところに生ずる行為である。それだけに個人差もあり、またジェネレーションギャップも大きい。他の世代から、また同世代でも立場を異にする人びとから何かと批判が出るのは、理由のあることだろう。

今回の調査では、アンケート調査としてはそれなりに工夫もして、なるべく「たてまえ」でないしつけの実態を探ろうとしたものであるが、しかしといって紙上で答えられた通りに実際の場で母親が行為する（しつける）かどうかは、多少ズレが出てきて当然だろう。

事実データを読んでいると、体験的印象とは違う数値を感ずる箇所もある。例えば、「よそのおばさんに注意されたら、子どもがバカと言った」場面で、「子どもにあやまらせる」が71％という数字が出てきているが、実際は「何てことを言うの」と子どもをたしなめて、「すみません」と相手に母親自身がわびるか、または子どもだけを叱って（バツが悪いので）相手には目礼するくらいが、ふつうの反応ではなかろうか。本心は子どもにきちんとあやまらせるべきだと思っている、というのがこの71％という数字になっているのだろう。

しかしそうした「気持ち、ポリシー」と実際の行為との多少のズレを差し引いてみても、幼児期のしつけはもう少し「厳しく」あっていいのではないか、というのが筆者らの感想

である。言うまでもなく家庭でのしつけは人間形成の基礎として、極めて重要である。「3歳までに決まる」とする見方は非科学的きめつけだが、幼児期のしつけが重要であることは確かな事実である。この時期のしつけは基本的人間形成に関わる重大な行為である。本調査の数値をみる限り、処々でもう少し「型に入れる」ことをしてもよいのでは、という印象を受ける。

そして付随して収集されたデータを見ると、母親が「子育て好き」であるかどうかが、重要なキーとして、しつけともその他の面とも関連をもつことが見いだされた。すなわち「子育て好きな母親」はそうでない母親より、子どもをまめにしつけており（型に入れる努力――例えば、叱るなどの方法で）、また子育てと他の自己実現の仕方を両立させたり、または両立させようとの構えをもっていることも見いだされた。

これは次の**表12**でも見ることができる。すでに見てきた図6の中にある「しつけに自信がもてない」から「夫の世話を負担に思うことがある」までの4項目と、さらに「もっと子どもと一緒の時間がほしい」を「子育てが好きか」との関連を見てみると、いずれも子育て好きの母親のほうがそうでない母親より

表12　母親役割・主婦役割 × 子育てが好きか

1．自分のしつけに自信がもてない

(%)

	そ　う	どちらともいえない	そうでない
子育てがとても好き	15.4	42.8	41.8
少し好き	26.2	47.2	26.6
好きでない	44.9	40.6	14.5

2．子育てをめんどうに思うときがある

(%)

	そ　う	どちらともいえない	そうでない
子育てがとても好き	9.4	11.3	79.3
少し好き	27.7	32.4	39.9
好きでない	71.4	21.9	6.7

もしつけに自信があり、子育ても家事も夫の世話もめんどうに思わず、「もっと子どもと一緒にいたい」と望んでいる。

しかし子育ては、長期にわたり人間としてのいわば「総合的力量」を要求されるむずかしい過程である。これを20歳や30歳で生物学的に母親になった人びとに、即パーフェクトに要求しても、その課題が十分に果たせないのは当然であろう。

例えば**表13**が示すように、度々本レポートで引用してきた「子育てが好きな母親」に対しては、その夫も63%が子育てに協力しているが、「少し好き」群では夫の協力は59%、「好きでない」群では51%でしかない。夫の

3．家事をめんどうに思うときがある

(%)

	そ う	どちらともいえない	そうでない
子育てがとても好き	35.8	21.9	42.3
少し好き	50.2	27.4	22.4
好きでない	75.6	13.5	10.9

4．夫の世話に負担を感じるときがある

(%)

	そ う	どちらともいえない	そうでない	未該当
子育てがとても好き	20.9	19.0	60.1	——
少し好き	25.0	27.3	46.8	0.9
好きでない	42.3	27.1	30.3	0.3

5．もっと子どもと一緒の時間がほしい

(%)

	そ う	どちらともいえない	そうでない
子育てがとても好き	41.6	29.8	28.6
少し好き	28.2	45.5	26.3
好きでない	20.3	37.6	42.1

協力があってこそ、子育ても適切に行うことができ、子育てが好きと言えるようになるのだろう。

このように昔から子育ては１人の親だけではなく、つまり生みの母親だけが行っていた行為ではなく、父親も祖父母も、地域の人びとも、そしてまた年長のきょうだいや近くにいた仲間(ピア・グループ)たちが関わってきた行為なのである。子どもの周囲からヒトがへり、都市化によって地域が崩壊もしくは消失しつつある状況の中で、社会がどう子育てを援助していけばいいか、その重要性を重ねて指摘しておきたい。

表13　夫の子育て協力 × 子育てが好きか

夫は子育てに協力してくれるか　(%)

	そ　う	どちらともいえない	そうでない	未該当
子育てがとても好き	63.1	12.3	24.0	0.6
少し好き	58.9	20.2	20.0	0.9
好きでない	50.7	21.1	27.6	0.6